



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町7-5-2
神戸大学大学院医学研究科
外科学講座食道胃腸外科学分野
TEL:078-382-5925 FAX:078-382-5939
発行者：掛地吉弘
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
小寺澤康文 (神戸大学食道胃腸外科)
印刷：株式会社dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

2024ISW 報告

ご挨拶

浜松医科大学 学長

今野 弘之



2024年8月25日から29日までマレーシアのクアラルンプールで開催されたISW2024は日本からも多くの参加があり、当初の予想以上の盛会となりました。

25日はLarge-Council Meeting (理事会) が開催され、次期理事に内定している掛地先生と一緒に参加しました。重要な審議事項としては、IAESがIntegrated Societiesから正式に離脱することや、ASAPが時代の変化に伴い学会を解散することが承認されました。ただ、IAESは今後もISWには参加し、ASAPメンバーも他学会との共同セッションに参画することになります。加えて長年ISS/SICを主導してきたSecretary GeneralのProf. K. Boffardが来年までで職を辞し、事務局のMr. Chris Storzも定年で退職となり、ISS/SICは大きな変革期を迎えます。また、2026ISWは温暖化の影響を考慮し、メキシコシティで4月に開催されることも正式に了承され

ました。

Opening Ceremonyはマレーシア外科学会との共催であり、王族の方も参加され、民族色が反映された華やかな式典となりました。日本支部関係では、宮内昭先生がHonorary Fellowに推挙され、横浜Awardの受賞者からも紹介されました。2日目は北川教授がGray Turner Lectureとして素晴らしい講演をされ、ISDS関係者を中心とした多くの聴衆に感銘を与えました。総会ではLloyd M. Nyhus Prizeを宇田川先生が受賞され、ISDS Grassi Prize (良性疾患)を折本先生が、Kitajima Prize (悪性疾患)を藤島先生が、受賞されるなど日本の若手外科医の研究力の高さが世に示されたと思います。

夜は初日、Kuala Lumpur Night, 2日目Integrated Society Nightでしたが、日本人を含めいずれも多数の参加がありました。イスラム圏ということもあり、アルコールは別途購入が必要でしたが、皆さんダンスを踊るなど思い思いに楽しまれていました。3日目のJapan Nightは八木先生が周到に準備したお陰で、お酒も十分用意され大いに盛り上がり、本学会の懇親の場としての意義を肌で感じる事ができました。

最後に、5年に渡り日本支部長を務めさせて頂きましたが、ISW2024を最後に神戸大学掛地先生に交代し、事務局も神戸大食道胃腸外科に移ります。会員の先生方の長年に渡るご支援に感謝申し上げますと共に、掛地新支部長及び新支部にも変わらぬご支援をお願い致します。

ご挨拶

万国外科学会日本支部長
神戸大学大学院医学研究科外科学講座
食道胃腸外科学分野 教授

掛地 吉弘



この度、今野先生の後任としてISS/SIC日本支部長にご指名頂きました神戸大学の掛地です。錚々たる先輩方が務めてこられた要職の責務に身が引き締まる思いですので、何卒、先生方のご指導、ご支援を宜しくお願い致します。

さて、本年8月25日から29日までマレーシアの首都Kuala Lumpurで開催された第50回World Congress of the International Society of Surgery, International Surgical Week 2024は、約70か国から1500余りの参加登録があり、お陰様で盛会裏に終了しました。日本からも100名近くの多くの先生方にご参加頂き、心から感謝致します。マレーシアの王族を招いての厳かなOpening ceremonyに始まり、Congress Presidentのマレーシアの女性外科医Prof. Cheng-Har YipによるPresidential Lectureは女性外科医の地位向上を終始訴えた講演でした。Grey Turner Lectureでは北川雄光先生がThe battle against esophageal cancerと題して圧巻の講演をされ、満員の聴衆を魅了されました。Covidの波が去り、復活したJapan Nightも60人余りの参加で盛り上がりました。赤道に近いマレーシアですが日本の酷暑に比べると大した暑さではなく、近代建築と自然が残る観光も楽しめました。イスラム教の国なので1日5回祈りの声が聞こえ、アル

コールは特別に許可された場所でのみ別料金を払って飲める状態でした。

Business Meetingでは、開会式前の日曜日に一日かけてISS/SIC理事会が開催され、会長はProf. YipからProf. Ari K. Leppäniemiへ引き継がれ、長年ISSを支えてきたScientific Office DirectorのChris Storzが間もなく引退するなど、幹部人事の紹介がありました。ISSの6つのIntegrated Societyの内、International Association of Endocrine Surgeons (IAES)が今回の参加を最後にISSから離れることになりました。1979年の初参加から今年で23回目の参加になり藤本吉秀先生、野口志郎先生、宮内昭先生方がpresidentを務めてこられ、多くの業績と貢献を成されました。2013年からISSに参加しているThe Alliance for Surgery and Anesthesia Presence (ASAP)も指導陣の交替が停滞して今後の活動について議論を続けており、ISSからは離れていくようです。一方で、International Association of Student Surgical Societies (IASSS)が新たにIntegrated Societyとして加わることになり、組織の構成が時代に合わせて変わっています。機関誌World Journal of SurgeryのEditor-in-ChiefもProf. Julie Ann SosaからProf. Sherry Wrenに引き継がれました。ISSのロゴマークも見直しの時期に来ており、worldwideな活動展開が求められています。

次回ISW2026はCongress PresidentのProf. Eduardo Montalvoによりメキシコシティで、真夏の暑い時期を避けて4月19-23日に開催予定です。地球の裏側で日本外科学会定期学術集会の会期(4月23-25日)とも1日重なっていますが、可能な範囲でのご参加を宜しくお願い申し上げます。さらにその次のISW2028の候補地についてはCapetown, Baku, Dubaiが挙げられており、魅力的なDubaiは経費が高つくので、CapetownあるいはBakuの可能性で検討されています。

今後ともISS/SIC日本支部の発展に向けて先生方のご指導とご支援を宜しくお願いいたします。

事務局長交代のご挨拶

慶應義塾大学医学部外科学
（一般・消化器）

八木 洋

和田則仁先生が長くお勤めなされた事務局長を僭越ながら2021年に引き継ぎ、約3年間勤めさせていただきました。この度、万国外科学会事務局移転に伴い、私自身も事務局長の任を離れさせていただくことになりました。在任中は特に日本支部長の今野弘之先生と前事務局長の和田則仁先生に多大なるご支援を賜りましたこと、この場をお借りいたしまして心より感謝申し上げます。

在任中にはコロナ禍にウィーンで開催されましたISW 2022および記憶に新しいクアラルンプールのISW 2024に携わることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。特にウィーンでは帰国前のPCR検査の手順や、皆様が滞りなくご帰国できるための手続きについて微力ながら奔走いたしました。結果的には多くの参加者の皆様にご不安なくウィーンという素晴らしい街と会場にて学会を満喫なさるご支援をすることができました。またクアラルンプールでは、北川教授のGrey Turner Lectureという歴史的な講演を拝聴することができ、また初めてJapan Nightの開催について担当させていただきました。多くの参加者の皆様にお楽しみいただくことができました。大変安堵いたしました。

世界的に歴史ある国際学会の事務局という大任を短い期間ではございましたが果たすことができました。このような貴重な機会を私のような若輩者に与えていただき、会員の皆様に深謝いたします。

この経験やデータはしっかりと次の事務局に引き継ぎ、滞りなく運営が継続できますよう、気を緩めることなく尽力して参ります。

会員の皆様の益々のご活躍とご多幸を祈念しております。

ご挨拶

事務局長
神戸大学食道胃腸外科

小寺澤 康文

2024年8月神戸大学食道胃腸外科、掛地吉弘教授が万国外科学会日本支部長に就任され、日本支部事務局が慶應義塾大学外科から神戸大学食道胃腸外科へ移転しました。それに伴い、この度、万国外科学会日本支部の事務局長を拝命いたしました。100年以上の伝統を誇る学会の重要な役割を担うこととなり、誠に身の引き締まる思いでございます。微力ながら、掛地教授を補佐し、全力で日本事務局の運営に励んでまいります。

私自身、2024年にクアラルンプールで開催された本学会に初めて参加いたしました。そこで、一部の先進国のみならず、アフリカを始めとする世界中の外科医が一堂に会し、活発な議論を繰り広げている姿に、大変感銘を受けました。また、本学会では、北川教授がGrey Turner Lectureを務められ、さらに多くの日本人の先生方が各賞を受賞されており、同じ日本人としても大変誇らしく感じました。

このような世界中の外科医による交流は非常に意義深いものと感じております。その一部を事務局として支えることができることを大変光栄に存じます。しかしながら、不慣れな点も多々あり、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思えます。何かお気づきの点がございましたら、ご指導ご鞭撻いただければ幸甚に存じます。

これからも全力を尽くしてまいりますので、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。



新事務局長の神戸大学 小寺澤康文先生（左）と筆者（右）

まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。

 **astellas**
アステラス製薬株式会社
www.astellas.com/jp/


Asociación Mexicana de Cirugía Endoscópica, A.C.
Mexico City, Mexico
19 - 23 April 2026
51st World Congress of the International Society of Surgery ISS/SIC
International Surgical Week
The World's Congress of Surgery
isw2026.org
Jointly organized with the 34th International Congress of the Mexican Association of Endoscopic Surgery



良質。均質。ツムラ品質。



生薬には、
個性がある。

株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/>
資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。
医療関係者の皆様 tel.0120-329-970
患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930
受付時間 9:00~17:30（土・日・祝日は除く）

2021年4月制作 

万国外科学会の思い出

慶應義塾大学外科
北川 雄光



私が万国外科学会に初めて参加したのは、2001年のブリュッセルで開催された第100回大会です。恩師北島政樹先生が、Grey Turner Lectureの演者に指名され多くの教室員とともに参加いたしました。Grey Turner Lectureは21世紀初頭に食道癌に対する経裂孔的手術法の開発などの数々の業績を残し、急性膵炎のGrey-Tuner兆候でも知られるGeorge Grey Turnerを記念して1961年に創設された荣誉ある記念講演です。1997年にメキシコ・アカプルコで開催された大会にて、初代万国外科学会日本支部長の出月康夫先生が日本人としては初めて演者を務められました。2001年のブリュッセルでは、聴衆の一人として北島先生の講演を拝聴し、日本人として、また慶大外科の一員として大変誇らしく、感動したことを記憶しております。2007年カナダ・モントリオール大会では北島先生が万国外科学会会長を務められ、日本からの参加者も多く大変な盛況でした。

私は2011年から4年間日本支部長、理事を拝命し、この間世界中の多く

の外科医の皆様との交流を深めることができました。2011年には慶大外科の先輩である渡邊昌彦先生がLocal Presidentを務める横浜大会を前に東日本大震災それに伴う福島原発事故が発生し、開催が危ぶまれる中で多くのご支援により何とか無事開催できました。「大変な災害に見舞われた日本を応援しよう」と世界から集まった外科医たちが「Japan night」に参加してくれた時の感激が思い出されます。2015年は前回2003年大会がSARSの流行で中止となったバンコクでの大会でしたが、直前に会場近くの霊廟で爆弾テロが発生し、多くの日本人が不参加となる中、日本支部長として恐る恐る参加したのを思い出します。何かと波乱の多い万国外科学会ですが、その都度色々な方々との貴重な出会いの機会を頂きました。

先日、2024年8月マレーシアの首都クアラルンプールで開催された大会では光栄にも私自身がGrey Turner Lectureの演者に指名していただきました。食道外科の世界的権威である香港大学John Wong教授の司会のもとで「THE BATTLE AGAINST ESOPHAGEAL CANCER: THE ROLE OF SURGICAL ONCOLOGIST IN THE ERA OF MULTIDISCIPLINARY CANCER TREATMENT」というタイトルで食道がん治療への取り組みの歴史とこれからの展望について発表させていただきました。日本からも多くの皆様にご参加をいただき、私が現役教授として出席する最後の万国外科学会でこのような荣誉をいただけたことに心より感謝申し上げます。

今後もこの万国外科学会を舞台に、次世代の皆様が世界に羽ばたかれることを切にお祈り申し上げます。

International Surgical Week (ISW) 2024 in Kuala Lumpur に参加して

日本医科大学大学院医学研究科
内分泌外科学分野 大学院教授
杉谷 巖



2024年8月26～29日、マレーシアのクアラルンプールにて、ISW 2024が開催されました。私事ではありますが、1995年のリスボン大会に師匠の藤本吉秀先生の鞆持ちとして初参加して以来、1997年アカプルコ、1999年ウィーン、2007年モントリオール、2009年アデレード、2011年横浜、2013年ヘルシンキ、2015年バンコク、2019年クラクフ、2021年Web開催、2022年ウィーンと、International Association of Endocrine Surgeons (IAES)のセッションを中心に参加してまいりました。まさに自分の内分泌外科・甲状腺外科医としての歩みそのものを体現する学会です。30年の月日を経ても、参加者の熱気は常に最高潮で、活発な議論とフレンドリーな会話が続いています。応募した演題がアクセプトされた

きの喜びや質疑のマイクに人がずらっと並ぶのを見る緊張感は今も変わりません。加えて最近では、教室の若手医師の演題も採用されるようになり、また別の緊迫感を楽しむことができるようになりました。

IAESのFree Paperは今回27題で、日本からの発表は3題とやや寂しい状況でした。それでもPoster Walkでは6題、Poster Exhibitionでは7題が日本からのもので、若手内分泌外科医の今後の国際的活躍が期待されます。トピックスには、内分泌外科における新しいテクノロジー（経口内視鏡手術、副甲状腺の自己蛍光による検出法、ラジオ波による結節治療など）に関するものがありましたが、とくに進行・再発甲状腺がんの選択的チロシンキナーゼ阻害薬に関するシンポジウムでは、米国、オーストラリア、日本からの発表があり、地域ごとのがんゲノム医療の実情について有意義な議論ができました。この経験を契機に、将来的な共同研究が展開されることを期待しています。

今回、隈病院名誉院長の宮内昭先生がISS/SICのHonorary Fellowに推挙されたことも、日本の内分泌外科医にとっては、大変栄誉な出来事でした。甲状腺外科領域において数々の業績のある宮内先生ですが、中でも低リスク乳頭癌のアクティブ・サーベイランスは、日本発のエビデンスが世界のガイドラインを書き換えた重要な功績です。

IAESは今大会を最後にISS/SICから独立することが決まり、今後はISWとは別に開催されることとなります。これまで先生方には大変お世話になりました。この場を借りて深謝申し上げます。今後も同じ外科医として、国内外でお世話になることと思いますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



宮内昭先生(隈病院)、ISS/SICのHonorary Fellowに



学会の合間にマラッカ探訪(オランダ教会)

Yokohama Award of International Surgical Week 2024 Kuala Lumpur, Malaysia 受賞者紹介

Yokohama Award は ISW2011 Yokohama の余剰金を基金とし、若手外科医の WCS への参加を支援する目的で創設されました。WCS に優れた演題を提出した 40 歳以下の外科医に授与されます(応募には日本支部会員による推薦が必要)。第 6 回である Yokohama Award ISW2024 Kuala Lumpur は応募抄録の厳正な審査の結果、次の 5 名の先生が受賞しました。



大分大学医学部 消化器・小児外科学講座

折本 大樹

演題「Development an Artificial intelligence system for the detection of scarring areas in laparoscopic cholecystectomy」



この度、2024年8月にマレーシア・クアラルンプールで開催されました the 50th World congress of Surgery におきまして Yokohama Award を授与いただき、大変光栄に存じます。私は腹腔鏡下胆嚢摘出術における手術支援 AI システムの開発に関する研究発表を行わせていただきました。国際学会での口頭発表という貴重な機会をいただきましたこと、また、学会に参加された諸先生方から数々のご指導を賜りましたことに深く感謝申し上げます。この経験を糧に、今後もより一層研鑽を積んでまいりたいと存じます。

本研究・発表を遂行する上でご指導、ご鞭撻とご援助を頂いた方々に改めて深く感謝を申し上げます。

させていただきました。当発表は甲状腺微小乳頭癌患者の治療方針選択に関する因子、不安の経時的変化について検討した縦断研究となります。前回の横断研究部分でも口頭発表を行い、今回、連続受賞させていただきました。ご指導いただいた先生方、またこのような大変貴重な機会を与えてくださった万国外科学会日本支部の皆様へ深く感謝申し上げます。

慶應義塾大学医学部外科学(一般・消化器)

坂本 恭子

演題「Evaluation of the postoperative course of colorectal cancer in patients with severe renal failure using a multicentre database」



万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、2024年8月に Kuala Lumpur で行われた International surgical week(ISW)にて Yokohama Award を授与頂きました。大変栄誉ある賞を頂き、とても光栄でございます。ISW の会場は国際色豊かで、非常に刺激的でした。日々の臨床や研究に対するモチベーションも、改めて強くなりました。参加、発表に際しご協力、ご指導頂いた先生方、誠にありがとうございました。

慶應義塾大学医学部外科学(一般・消化器)

宇田川 大輔

演題「"Decellularized liver hydrogel"; Promising scaffold material that enhances cell engraftment in orthotopic hepatocyte transplantation」



この度は栄誉ある YOKOHAMA AWARD を受賞することができ大変嬉しく思います。

私は脱細胞化肝臓ゲルを用いた新規肝細胞移植法の開発というテーマで発表の機会をいただき、学会の Lloyd M. Nyhus best Prize も受賞することができました。この国際学会での受賞を糧に、国際人として今後活躍できますよう益々臨床および研究に邁進していきたい所存です。

今回の受賞におきましては直接研究のご指導を頂きました一般・消化器外科八木洋先生、北郷実先生、北川雄光教授をはじめこれまでお世話になりました多くの先生方に深く感謝申し上げます。

日本医科大学 内分泌外科

數阪 広子

演題「Longitudinal Study on Patient-Reported Outcomes in Patients Under Active Surveillance for Low-Risk Papillary Thyroid Carcinoma: Mitigating Anxiety Over Time」



万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、第 6 回 Yokohama Award を受賞

東京大学医科学研究所 外科

向山 順子

演題「Comprehensive microRNA expression profiling utilizing surgical specimens of colorectal cancer and elucidating molecular mechanism regulating cancer stem cell functions」



この度は、栄誉ある第 6 回 Yokohama Award を頂戴し、大変光栄に存じます。私は、大腸癌幹細胞を制御するマイクロ RNA についての研究成果を発表させていただきました。

今回は若い娘達を連れての参加でしたが、Japan Night では多くの先生方に優しいお声がけをいただき、有難うございました。今後も、臨床と研究の両方向から大腸癌の予後改善を目指して、日々研鑽を積んでいく所存です。貴重な機会を与えていただきました万国外科学会日本支部の皆様へ心より感謝を申し上げます。

ISW 2024 in Malaysia 開催報告

慶應義塾大学医学部外科学(一般・消化器)

八木 洋

この度 2024 年 8 月 25 日から 8 月 29 日にマレーシアのクアラルンプールにございます KLCC コンベンションセンターにて、第 51 回 ISW2024 が開催されました。非常に洗練された綺麗な会場で、毎日マレーシア料理が振る舞われ、大変素晴らしい環境の中、日本人参加者も約 100 名に登り、熱気に溢れた活気のある大会でした。

特に本会では宮内昭先生が Honorary Fellow に推挙され、他にも若林剛先生が ISDS の President Elect に就任され、また掛地吉弘先生が ISS の Councillor に就任されるなど、日本人会員にとって大変嬉しいニュースが多く、本学会における日本人会員の重要性が更に際立った学会だったと感じております。中でも日本人として 3 人目の Grey Turner Lecture をお勤めになった北川雄光教授のご講演には、一貫した食道癌との戦いの歴史を踏まえて、若手外科医への熱いメッセージが込められており、本学会に

おけるまさに日本人の高いプレゼンスを象徴するような素晴らしいご講演でした。また若手の先生の受賞も相次ぎ、Kitajima Prize に大学院生の藤島怜央先生が、Lloyd M. Nyhus Prize に宇田川大輔先生が、そして ISDS Grassi Prize に折本大樹先生が、それぞれ栄誉に輝かれました。まさに賞を日本人の先生が総なめにしたような大変な快挙だったと思います。

最後の夜には学会場から Sky Walk で直結した Impiana Hotel にて Japan Night が開催され、お子様を含めて 66 名という大変多くのご参加をいただきました。今期日本支部長をご退任されました今野弘之先生の開会のご挨拶の後、北野正剛先生の乾杯のご発声を合図に始まり、Yokohama Award 受賞者のご紹介などが執り行われ、大変な盛況のうちに閉会いたしました。

2 年後の 4 月にはメキシコシティで第 52 回 ISW 2026 が開催されることが決定いたしました。最新の技術だけでなく、新興国で今のような課題があるのか、世界における外科治療の立ち位置を再確認することができる数少ない機会であるとともに、若手の先生方の貴重な国際学会発表の場としても大変重要である本学会において、引き続き日本人のプレゼンスがしっかりと保てるよう祈念しております。

第55回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会議事録

2024年4月20日(土曜日)午前8:15～8:45
AICHI SKY EXPO (愛知県国際展示場) M-2シアタールーム
対面・WEBのハイブリット開催

出席者：海野倫明、江口英利、掛地吉弘、敷阪広子、菊池寛利、北川雄光、北野正剛、小谷穰治、小寺泰弘、小山知秀、今野弘之、佐藤美信、枝園忠彦、杉谷 巖、竹内裕也、寺島雅典、鍋谷圭宏、野村幸世、比企直樹、福島亮治、淵本康史、堀周太郎、前田耕太郎、松原久裕、村尾佳則、八木 洋、横江隆夫、吉田 昌、和田則仁
(敬称略、五十音順、計29名)(事務局：小寺澤康文、藤本早紀)

1 開会挨拶 八木事務局長より開会挨拶。

2 支部長挨拶

今野日本支部長よりご挨拶、学会最終日の早朝にも関わらずご参集いただいたことへの御礼がなされた。

前支部長 北野正剛先生、前々支部長 北川雄光先生、第124回日本外科学会定期学術集会会頭 小寺泰弘先生よりご挨拶をいただいた。

3 ISS/SIC 理事会報告 今野日本支部長：

3月15日、16日に実施されたISS/SIC理事会の報告として、ISW2024はマレーシア・クアラルンプールコンベンションセンターにて、マレーシア外科学会と共催の形で開催される。

ISW2026はメキシコシティで4月26日からの5日間で行われる予定。

4 会則変更

今野日本支部長より支部長交代、事務局移転に伴う会則変更についてご説明があった。

神戸大学掛地吉弘先生が次期支部長として承認された。事務局が神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野に移転することも総会出席会員の過半数の同意を得て承認され、会則変更が認められた。

掛地先生よりご挨拶：万国外科学会のコンセプトである国際交流と親善をしっかりと若い方に伝えていけるよう魅力のある国際学会にしていきたいとご挨拶をいただいた。

5 International Surgical Weekについて 八木事務局長：

① ISW 2024ご案内 2024年8月25日から29日クアラルンプールコンベンションセンターで開催される。主な日程をご報告いただいた。

② Grey Turner Memorial Lecture 8月27日(火)12:15～13:15より北川雄光先生が「THE BATTLE AGAINST ESOPHAGEAL CANCER: THE ROLE OF SURGICAL ONCOLOGIST IN THE ERA OF MULTIDISCIPLINARY CANCER TREATMENT」をご講演されることが報告された。

③ YOKOHAMA AWARD 受賞が決定した5名の先生の報告がされた。また5名の先生にはJapan Nightにてご挨拶を賜る予定。

④ Japan Night 会場は選定中であり、会費はおひとり様1万円を予定していることを報告した。

6 支部活動報告

ニュースレターの発行、支部総会の開催について報告があった。

7 決算・予算案

異議なしで原案通り承認された。予算案についてニュースレターのPDF化に伴い、通信費・印刷費を圧縮していることを報告した。

8 Collective Member Societies より

■ IAES 杉谷巖先生：

ISW2024にはIAESより多くの人数が参加することが決定している。なお、IAESはISW2024の参加を最後にISSより抜けることが報告された。ISSとの良好な関係は継続する。

■ IASMEN 小谷穰治先生：

ISW2024のプログラムのご紹介。アジア外科代謝栄養学会との関係を作っていくため、ジョイントセッションをつくっている。初めての試みとしてIATSIC、IASMEN、ISDSの3つでセッションを行う。様々な学会とのジョイントセッションをしっかりと行っていく。

■ BSI 枝園忠彦先生：

ISW2024に先立ち2月に「妊娠期乳癌」をテーマとしたWebinarを開催。ISW2024ではラジオセラフィー・超音波のワークショップ、教育講演を開催予定。

■ ISDS 吉田昌先生：

今回のISWではセッションがほとんど決まっていたため、次回の学会では日本人が参加しやすいセッションを組み込めるよう、セッション等の意見があれば教えてほしい。

■ IATSIC

スライド資料を共有した。

■ International Association of Student Surgical Societies (IASSS) 八木事務局長：

IASSSは南アフリカを中心に積極的に活動しており、世界122か国が加盟している。今年は資金の関係上、学生の参加は難しい状況であるが、今後積極的に学生の参加をお願いしたい。

9 次回日程について

令和6年11月23日(土)前後で現地開催を予定しているが、開催方法は相談しながら決定していく。

10 閉会挨拶

今野日本支部長より支部長退任にあたり、2007年より事務局を担当された慶應大学外科、北川先生をはじめ、和田先生、八木先生、歴代の秘書の皆様のお力によって運営されてきたことに心から感謝を申し上げます。会員の先生方があっての万国外科学会であるので、今後も掛地先生のもとで本会を継続し、さらに発展させていただきよう願ひいたしますとご挨拶をいただいた。

ISW2024への参加呼びかけがなされ、今野日本支部長閉会の挨拶で締めくくられた。以上

51th World Congress of Surgery

International Surgical Week 2026 Mexico City (ISW2026 メキシコ)

2026年4月19日(日)～23日(木)

ご案内

2026年4月19日(日)～23日(木)の5日間、メキシコのメキシコシティにおきまして、International Surgical Week 2026 Mexico City (ISW2026 メキシコ)が開催されます。日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

演題登録締め切り 2025年8月8日(木)

※変更される場合がございますので、最新情報はHPをご確認ください。



Mexico City, Mexico

19 - 23 April 2026

51st World Congress of the International Society of Surgery ISS/SIC

International Surgical Week

The World's Congress of Surgery

isw2026.org

Jointly organized with the 34th International Congress of the Mexican Association of Endoscopic Surgery

Yokohama Award

5名程度 Award 一人当たり10万円

ISS/SIC日本支部は、日本からの若手外科医のISWの参加を支援しています。

応募条件は、応募時点で40歳以下の日本人外科医で、

① ISW2026メキシコにOralの演題を提出、かつ ② ISS/SICの日本支部会員からの推薦があることです。